

# 水陸萬頃

第8号

奥州農業改良普及センター TEL: 0197-35-6741 FAX: 0197-35-6303  
いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



※水陸萬頃とは

「続日本記」によると、胆江地域は「水と土地が豊かなところ＝水陸萬頃」と記されている。

## 次代を担う若い農業者に期待

先頃、令和3年度いわて農林水産振興協議会会長表彰「明日を拓く担い手賞」及び胆江地方農業青年奨励賞の受賞者が決定したほか、岩手県青年農業士が新たに認定されました。

いわて農林水産振興協議会会長表彰は、岩手県の農林水産業及び農山漁村の発展に先進的に取り組み、顕著な業績を上げた経営体や、組織、集落等を表彰し、優れた農林水産業経営の確立を図るとともに、岩手県の農林水産物の産地づくりの推進や、地域の活性化に向けた取組を促進しようとするものです。このうち「明日を拓く担い手賞」は、新たに農林水産業に就業し、意欲をもって経営等に取り組んでいる農林漁業者を表彰するものです。

管内からは、奥州市の株式会社五十嵐ファームと株式会社TFarm（ティーファーム）が受賞し、12月24日（金）盛岡市で開催された「いわて農林水産躍進大会」で岩手県知事から表彰状が授与されました。

胆江地方農業青年奨励賞は、自らの創意工夫とたくましい実践力をもって、地域農業の発展や生活の改良に努力している青年や組織を胆江地方農林業振興協議会が表彰するもので、奥州市の佐藤彰紀氏と金ヶ崎町の本館尚之氏が受賞しました。

表彰式は1月20日（木）に行われます。

岩手県青年農業士は、地域の農業・農村の振興に意欲的に取り組んでいる優れた青年農業者を岩手県が認定し、その自主的活動の助長を図ることにより、県内農業及び農村の一層の発展に寄与していただくものです。管内からは奥州市の佐藤祐太氏が認定されました。

認定証書交付式は、2月1日（火）に行われます。

次のページに、受賞者及び認定者を紹介します。



# 受賞者・認定者の紹介

## 株式会社五十嵐ファーム

(奥州市、岩手県農林水産振興協議会長表彰(明日を拓く担い手賞))

株式会社五十嵐ファーム(代表取締役 五十嵐学氏)は、25棟のハウスでピーマン78a、小松菜70aを栽培しているJA岩手ふるさと屈指の大規模野菜経営体です。地元の方を積極的に雇用するほか、農福連携を通じて福祉施設利用者に就労の場を提供しています。令和3年3月、株式会社五十嵐ファームを設立し、規模拡大と経営の安定化に取り組んでいます。



## 株式会社TFarm

(奥州市、岩手県農林水産振興協議会長表彰(明日を拓く担い手賞))

株式会社TFarm(代表取締役 高橋幸浩氏)は、水稻12.5ha、転作牧草4.0ha、肉牛繁殖・肥育一貫(繁殖20頭、肥育55頭)経営を行っています。粗飼料を完全自給し、牛の疾病を早期に発見し牛舎環境管理を徹底することで良好な繁殖成績を維持しています。水稻栽培では牛糞堆肥による土づくりを行うほか、周辺農家への供給を通じて耕畜連携を行っています。また、平成29年に法人化して収益性の向上と経営安定を図っています。



## 佐藤 祐太氏 (奥州市、岩手県青年農業士)

佐藤氏は、露地ピーマン50a、水稻460aの複合経営で、就農13年目、31歳の若手経営者です。土づくりに注力しながら生育の状況を丹念に観察し、植物の生理や気候に合わせた管理を行うことで、ピーマンや水稻の収益を上げている生産者です。JA青年部での活動や地域の中学生の農業体験受入れなど、地域貢献も積極的に行っています。今後は青年農業士として若い視点から岩手の農業を盛り上げていきたいとの強い意気込みです。



## 佐藤 彰紀氏 (奥州市、胆江地方農業青年奨励賞)

佐藤氏は、ハウスピーマン26.4aの経営で、生産面では防虫ネットによる防除の省力化と低コスト化、地域活動ではJA岩手ふるさとピーマン専門部担い手班「Growth(グロース)」の仲間とともに、技術研鑽やスーパー等での販売促進活動に取り組んできたことが評価されました。

先輩達が築き上げたピーマン産地を、将来に向けて守っていきたくと考えています。



## 本館 尚之氏 (金ケ崎町、胆江地方農業青年奨励賞)

本館氏は、経産牛38頭、育成牛20頭の酪農経営で、繁殖検診の定期的な受診のほか、地域に先駆けて乳房炎ワクチンの効果実証に取り組み、岩手県ブラックアンドホワイトショウやJA岩手ふるさと畜産共進会でも上位入賞してきました。また、仲間の若手酪農家と共に自給飼料生産に取り組むなど、地域の酪農振興に貢献してきたことが評価されました。

今後は長命連産を目標に、生産性の向上や地域の酪農振興に引き続き取り組む意向です。



# 🏆 (株)小形畜産 (前沢) が農林水産大臣賞 🏆

令和3年11月18日、東京食肉市場で開催された第50回全国畜産農業協同組合連合会肉用牛枝肉共進会 黒毛和種去勢の部で、(株)小形畜産が栄えある最優秀賞の農林水産大臣賞に輝きました。当共進会は北海道から沖縄まで全国各地から選りすぐりの70頭が出品。(株)小形畜産の出品牛は、「肩付近の筋肉の張り、モモ抜け(モモにもサシが綺麗に入る)、肉色、光沢、きめ、歩留まりが良く、各部位に万遍なくサシが入り、去勢牛の特徴を十分発揮された」と高い評価を受けました。そこで、突撃！ 高橋代表、千葉牧場長に管理の秘訣など、伺って来ました。

## 🐮 受賞牛の紹介

〈出生地〉盛岡市(2産目産子)  
中央市場より導入  
〈血統〉父：勝早桜5  
母の父：美国桜  
〈導入時〉体格は普通  
〈性格〉温厚、人に従順  
食欲旺盛  
〈管理〉出荷半年前から単独飼い  
〈出荷時〉月齢：29.9か月  
体重：883kg  
〈枝肉成績〉枝肉重量：605kg  
A5、BMSNo.12  
ロース芯：108cm

## 🐮 (株)小形畜産の管理の特徴

〈頭数〉肥育牛550頭、繁殖牛50頭  
〈スタッフ〉7名  
〈肥育牛のえさ〉  
発酵飼料、配合飼料(独自指定)、稲わら、乾草  
〈能力把握〉  
繁殖牛は全頭ゲノム検査を実施し能力を把握  
交配シミュレーションにより生まれてくる子牛の大きさや能力を推定  
〈ICTの活用〉  
肥育牛：ファームノートカラー  
(牛の活動量を把握する機器で起立不能など異常を通知してくれる)  
繁殖牛：牛温恵(分娩の兆候を察知し通知してくれる)  
〈環境づくり〉  
ストレスフリーを徹底(牛床の乾燥、換気、ブラッシングなど)



千葉牧場長は「今回の受賞は予想外だった。牛は頑張っ手をつけた分、ちゃんと結果を返してくれる。誰も買わない小さい牛を市場から買って、大きく育てることもある。牛飼いは楽しい。」と目を輝かせ、高橋代表は「日々勉強。今後もいい牛を育てていく。」と先を見る。また、今後の目標は？の問いに、「普段から安定的にいい牛を出して行きたい。」と冷静に経営を見据える答え。今回、お話を伺って確信したことは、牧場長の職人技とも言える肥育技術の根底には、常に牛を一番に考え大事にする、あふれる牛愛(うしあい)\*があるということ。この技術が若い方々に継承され、前沢牛がさらに盛り上がっていくことを心から願います。

※牛愛→筆者が勝手に付けました🍷 ◆同11月開催の第65回岩手県畜産共進会 肉牛の部においても(株)小形畜産の出品牛が最優秀賞の名誉賞を受賞。父は菊勝久、母の父は諒太郎、枝肉重量709kg、A5、BMSNo.12、ロース芯120cmという圧倒的な成績でした。



牛舎はいつもきれいで  
牛がゆったりしています



小池都知事からの副賞→

一緒に牛飼いしませんか？  
スタッフ募集中です！



スタッフの皆さん  
元気に挨拶してくれます  
高橋代表(前列中央、千葉牧場長(前列右)

## お近くに農業を始めた方はいらっしゃいませんか？

普及センターでは、新規就農者支援のため、新規就農者の情報を集めています。

情報をいただいた新規就農者の方には、今後新規就農者向けの各種研修会や事業等の情報を直接お知らせします！

お近くで就農した方などの情報がありましたら、普及センターへお知らせください。

### 就農相談窓口の日

引き続き  
実施中！

#### ○時期・期間

毎月第2木曜日(①13:30~、②15:00~)

#### ○内容

関係機関の担当者による相談対応や情報提供

#### ○申込方法

相談日の3日前までに、普及センターにお申込み下さい。



# 作物ワンポイントアドバイス（1～3月）

## りんごわい性樹（成木）の整枝せん定

整枝せん定の目的は、毎年安定して品質が揃った良い果実を生産すること、栽培管理しやすい樹形をつくること等です。

成木の目標樹形は、上部がほっそりし、下部が広がった円すいまたは円すい台の主幹形です。樹高2.5～3m、結実部位の高さ2.5m以下となるように、主幹下部に長めの側枝、上部に細く短めの側枝を配置し、側枝には成り枝（結果枝が着生する枝）をバランスよく配置します。

作業の前には樹を良く観察します。観察のポイントは、良い結果枝が十分あるか、下部の枝まで日光が到達するか、どの枝にも手が届くか、脚立をかけやすいか、散布薬液が樹全体に良くかかるか等です。整枝せん定の目的を損なう側枝や成り枝は間引きますが、間引く枝が大きい場合には、その基部側の枝から順次せん除し、数年かけて間引く方が良いでしょう。成り枝は、更新枝を育てておき、側枝に対して大きくなりすぎる前に間引きます。

成木のせん定は、間引きが主体ですが、樹勢が弱い場合は、必要に応じて切返しも行います。

## 大雪に備えましょう



昨年度の冬は、ラニーニャ現象発生の影響による大雪により、奥州地域ではハウスが倒壊するなどの大きな被害が発生し、施設園芸や水稻育苗等に大きな影響がありました。

この冬も大雪となる可能性があるので天気予報の降雪状況をこまめに確認し、降雪前に大雪の発生に備えてハウス補強等、万全の対策を講じて被害の軽減をはかりましょう。

降雪時は早めの除雪を心がけますが、ハウス倒壊等に注意して作業しましょう。

また施設園芸では万が一に備えて園芸施設共済への加入も検討しましょう。

## 食品衛生法改正への対応について

「食品衛生法」は飲食による健康被害の発生を防止するための法律です。

前回の法改正から15年ぶりに改正が行われました。改正点の中で産直や小規模事業者等で大きく関わる内容は、「原則全ての事業者がHACCPに沿った衛生管理の制度化」と「営業届出制度の創設と営業許可制度の見直し」の2つです。

営業届出制度の創設に係り、農産物直売所は保健所に「野菜果物販売業」としての営業届の提出が義務付けられました。今一度ご確認ください。（問合せ先：奥州保健所 環境衛生課、TEL：48-2423）

## 明子の部屋

～佐藤明子所長のつぶやき～



新年あけましておめでとうございます。相変わらずのコロナ禍ですが、移動制限も解除されていたことから、久しぶりに家族そろってお正月を迎えられた方も多かったのではないのでしょうか。

さて、去年は、度重なる気象災害や、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等で米を始めとした農作物の価格が下がるなど、大変な年でした。しかし、そのような状況においても明るい話題がありました。それは、新規就農の相談が増えていることです。12月末における相談は、前年の6割増しとなっています。嬉しいことに、ほぼ毎日、相談する方がお見えになっています。赤ちゃんや小さなお子さん連れの方もおり、家族で奥州地域に帰郷（移住）し、農業を仕事として選択してくれれば、と思わずにはられません。県でも人口減少に対応する「いわてで生み育てる支援本部」を設置し、力を入れていくこととしており、「生むなら岩手」「育てるなら岩手」「働くなら岩手」の実現に向け、取組を進めていきます。（明子）

新型コロナウイルス感染症に係る農林水産相談窓口を県南広域振興局農政部（0197-22-2841）および奥州農業改良普及センター（0197-35-6741）に設置しています。

また、米価下落に関する相談にも対応しています。